

石神井中学校・石神井小学校・上石神井北小学校

中学校区の特徴

- ・互いに離れた場所に立地している。
- ・石神井公園など自然に触れられる地域である。
- ・歴史ある寺社や図書館等の公共施設がある

目指す児童生徒像(各校の教育目標)

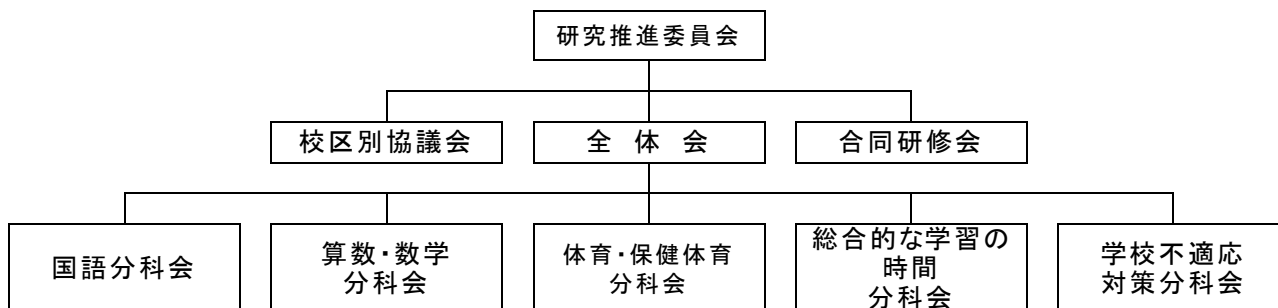
- 石神井中学校
- 明るく健康な生徒
 - 正しい判断力を持ち、主体的に学び行動する生徒
 - 豊かな情操を持ち、品位ある生徒
- 石神井小学校
- よく考える子
 - 思いやりのある子
 - 根気よくやりぬく子
 - 元気な子
- 上石神井北小学校
- よく考えて学習する子ども
 - すすんではたらく子ども
 - 仲よく助け合う子ども
 - 最後までやりぬく子ども

I 小中一貫教育の推進

1 目指す児童生徒像の具現化に向けた取組

- (1) 学力・体力の向上
 - ア、研究推進委員会
 - イ、合同研究授業
 - ウ、研究分科会
- (2) 豊かな人間性・社会性の育成
 - ア、小学生体験授業
- (3) 安定した学校生活
 - ア、一斉防災訓練時の引き取り訓練
 - イ、学校不適応対策分科会

2 教育プラン推進のための推進組織



平成 28 年度 主な予定 (年間計画)			
日	会場	内容	分科会
4月22日(金)	石神井中学校	第1回研究推進委員会	なし
6月24日(金)	石神井中学校	第1回中学校区別教職員研究協議会 (研究授業・協議会) 第2回研究推進委員会	・カリキュラムの検証
9月28日(水)	石神井中学校	小学生体験授業	なし
11月16日(水)	上石神井北小学校	第2回中学校区別教職員研究協議会 (研究授業・協議会) 第3回研究推進委員会	・各分科会の活動報告 ・カリキュラムの検証
2月3日(金)	石神井小学校	小中連携合同研究授業 (研究授業・協議会) 第4回研究推進委員会	・次年度の実践校としての取組案検討

Ⅱ 実践校の特色ある取組

1 成果と課題

(1) 学力・体力の向上

ア、研究推進委員会

各校の連携クリエイターや研修担当を中心に合同研究授業・分科会等を計画的に実施し、教員間の交流を深めることができた。

イ、合同研究授業

小中一貫実践校として、2年間の研究で作成した課題改善カリキュラムに基づいて研究授業を行うことができた。各学年で身に付けるべき学習内容を児童・生徒が確実に修得できるようにしていくことが、今後の課題である。

ウ、研究分科会

研究授業で明らかになった課題について議論を重ねながら、さらに活用性のあるカリキュラムにしていく必要がある。具体的な協議を通して、課題改善カリキュラムの見直し・修正を行うようにしていくことが、今後の課題である。

(2) 豊かな人間性・社会性の育成

ア、小学生体験授業

中学校の授業の様子を実際に体験して知ることができた。また、今年度から部活動体験も行った。授業と部活動の経験をできたことで児童は、中学校に行くのが楽しみになり、中学進学へ期待をもつことができた。



～ 部活動体験の様子 ～

(3) 安定した学校生活

ア、一斉防災訓練時の引き取り訓練

練馬区一斉防災訓練にあわせて、石神井中学校に通学している生徒に、石神井小学校、上石神井北小学校に通っている兄弟姉妹がいる場合、石神井中学校の兄姉が小学校に一度移動し、保護者が一斉に引き取りを行う訓練を行う予定だった。

昨年度は実施できたが、今年度は中学校の修学旅行が重なりできなかつたので計画を立て、来年度につなげていきたい。

イ、学校不適応対策分科会

学校不適応分科会においては、引き継ぎ項目を作成し各校の引き継ぎを行った。中学校の指導をする上で有益だったので、今後も工夫を重ねて滑らかな引き継ぎができるようにしたい。

Ⅲ 今後の取組

- 1 次年度以降についても、これまでの内容を各校の連携クリエイターを中心に継続していく。
- 2 課題改善カリキュラムを活用した授業実践に継続して取り組み、3校による共同研究で検証を行っていく。また、取組の成果を区内の小・中学校へ発信し、小中一貫教育の有効な手立ての一つとして紹介していきたい。